

包み込む。

妙法寺駅から北須磨団地までは永遠と続く上り坂である。しばらくすると、左手に横尾団地が見えてくる。いたって普通の団地である。小さな子どもたちが、母親に連れられて遊んでいる。そこには3組の親子がいる。3人の母親は立ち話をし、子どもたちは公園内で砂遊びをしている。

しばらくすると、女子中学生の下校する一団に出会う。乱れた服装をする生徒は少なく、スカートの丈は膝が隠れるくらいで、少し奇妙にも感じる。ルーズソックスをはいている生徒も数えるほどしかおらず、髪の毛も後ろで束ねている生徒ばかりである。

しかし、何人かはPHSや、携帯電話をカバンからぶら下げ歩いている。テストの問題について話しをしている生徒がいる。この時間帯に下校しているところから、中間テスト中であることが予測される。しばらくして、坂を上りきったところにこの女子中学生の通う学校「啓明女学院」が見えてきた。小さな敷地で、新しい校舎である。

この学校を抜けると、大通りに出る。この通りには、ある程度車が走るが、渋滞することなく車はスムーズに走る。大きな駐車場があるレストランが3件、マクドナルドのドライブスルーが1件、ガソリンスタンド、カー用品店（オートボックス）がある。いずれの店の特徴も、大きな駐車場を要しているところである。

また、オートボックスの駐車場にはレンタルビデオ屋と古本屋がある。

しばらくすると、目的地が見えてきた。

2. 北須磨団地入り口～コープこうべ

大通りを少し北へ下ると、「北須磨団地入口」と書かれた信号機が見える。信号をわたると左手に看板が目に見え込んでくる。『労金 北須磨団地』、この看板はかなり大きく、ひとつの看板の長さは、実に2メートル近くある（写真28）。

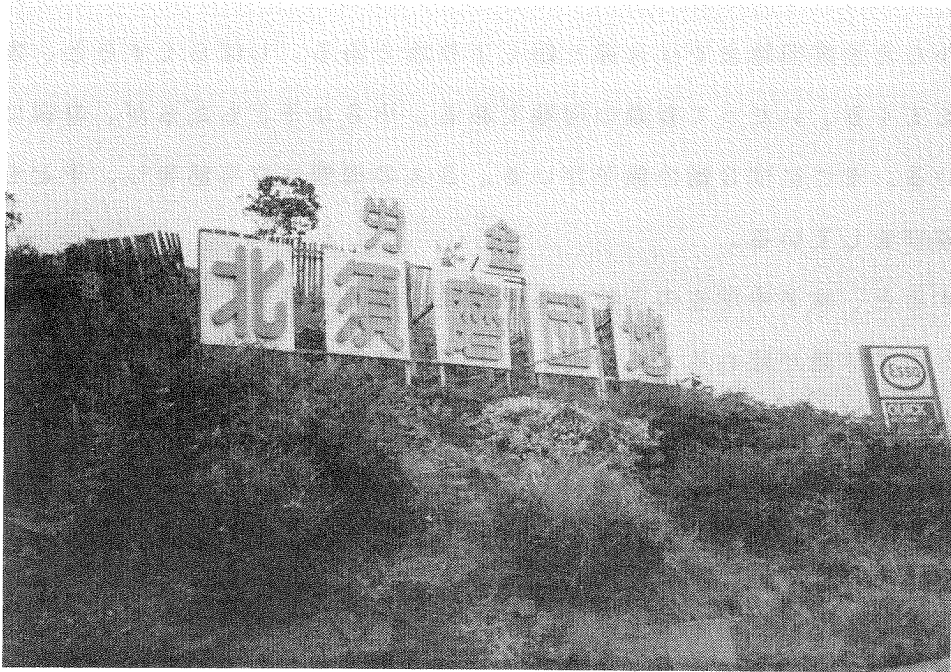


写真 28 団地入り口に立つ看板

この看板を越えると、道は下り坂になる。

団地入り口を行くと、まもなく福祉施設「神戸聖生園」「神戸友生園」「神戸愛生園」が左手に見える。ちらほら一軒家の住宅が建ち並びはじめる。北須磨団地のメインストリートは両側に歩道をつけ、街路樹が並ぶ。しばらく行くと、右手に郵便局が見えてくる。

両側に一軒家が建ち並ぶ区域が続く。右手に「友が丘防災防犯センター」と書かれた看板を掲げたプレハブ2階建ての建物が見えてくる。その隣は小さな公園「北須磨公園」、「友が丘」バス停、「コープこうべ」が見えてくる。北須磨団地内で、唯一人が集まってくる区域である。

北須磨団地入口より、ここに至るまでの15分間、横を通る車は4台。すれ違った住人は3人。このうち2人は、通りを掃き掃除をしている。もう1人は、坂を上っている。バス停にようやく数人の集団を見る。5人がバスを待ち、妙法寺行きバスに乗り込む。時間帯が昼時だったせいか、お年寄りの姿が目立つ。よそ者の筆者に対して、少し疑わしい視線を投げってくる。その視線にカメラを向けることが出来ない。

「友が丘防災防犯センター」こそ、「警察のない街」の象徴である。よろず相談と書かれた看板を掲げ、1人の老人が椅子に座っている。この老人こそ、北須磨団地自治会

長石田一一氏である（写真29）。

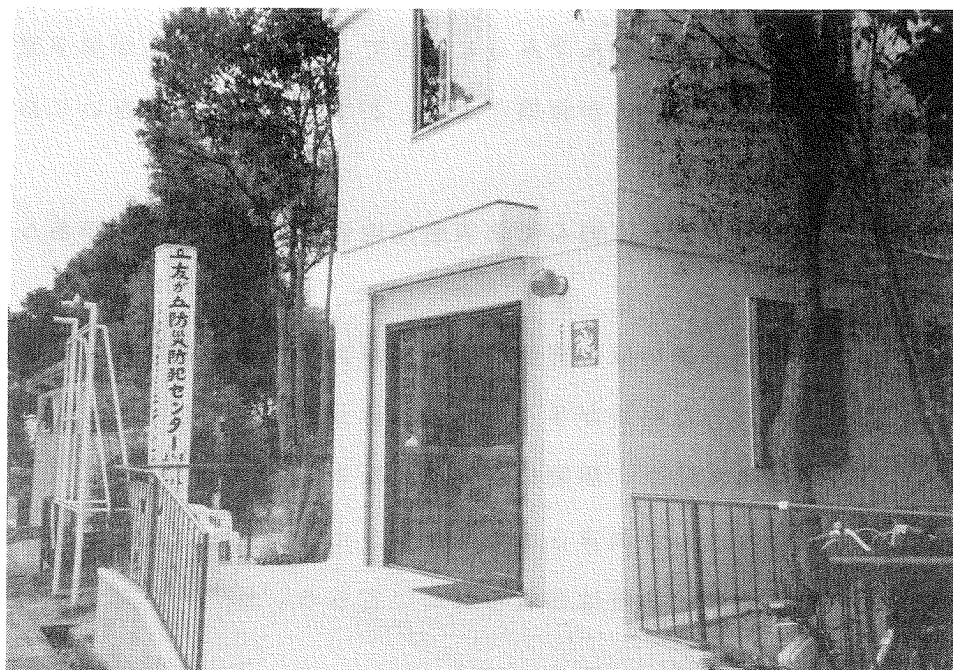


写真29 地域のシンボル・防災防犯センター

「コープこうべ」には主婦やお年寄りが多数買い物をしている。コープ特有のゆったりとした時間が流れている。コープの2階には、喫茶店と本屋があり、自動販売機が並ぶ。北須磨団地の道路には、この場所以外に自動販売機はない。

「北須磨公園」は人影もなく、木々によって薄暗い影を落としている。小鳥のさえずりが聞こえてくる。少し小高い丘にベンチがあり、その下には土がむき出しになった広場がある。隅の方に鉄棒が4台あるだけの公園である。

北須磨団地に入るとすぐに、一角だけ濃い緑の場所が見える。「タンク山」である。緑の山の中腹に、見慣れた水道タンクが見え、この山がある限り「ここは、神戸の事件現場なんだな」という意識を再認識させられる。しかし、この山を見ない限り、どこにでもある住宅街にも見えるのである。

3. 多井畑小学校

北須磨団地内の西へ進むメインストリートを歩いて行くと、左手に多井畑小学校が見えてくる。多井畑小学校は被害者である土師淳くんが通っており、また、少年も通っていた小学校である。

小学校は授業中であるため、グラウンドに出ている児童は、体育の授業を受けている児童と、私服のままドッチボールをしている集団だけであった。屈託のない笑い声が聞こえてくる。隅の方の車のタイヤが積んであるところで、女子児童3名が男子児童1名を囲んでふざけている。女子児童の方が体格がよく、どうも、男子児童をいじめているようにも見える。

多井畑小学校はまた、敷地移転に絡んで北須磨団地自治会とトラブルがあったという記述がある。

後述する竜が台小学校との違いは、児童の雰囲気がおとなしいというか、都会的な感じを受ける。私服もこぎれいな格好が多く、学校全体が道路に面しており、しかも道路より低い土地に学校があるためか、周囲の目が気になる。

この学校からも、土師淳くんが殺害された「タンク山」は見上げることができる。このタンク山が見えている限り、事件は忘れられないだろう。

4. タンク山周辺～北須磨第二保育センター

筆者の感覚は、ニュータウンは同じ様な風景が続き、団地やマンションが建ち並ぶ無機質な空間だと認識していた。

多井畑小学校を過ぎて、ようやくマンションが見えてくる。ここに来て、初めてニュータウンと認識できる指標に出会ったが、実際ニュータウンという様相はあまり無い。

メインストリートの左手にあるマンションは、タンク山のすぐ脇へ建てられている。

タンク山へ登る経路を探し、マンション横の道を登るが、マンションの駐車場にたどり着くばかりである。タンク山への道を探そうと迷い込んだマンションこそ、被害者の土師淳くんの自宅であった。自宅のすぐ裏は、淳くんが殺害されたタンク山というのが、とても心苦しく感じる。

しばらくすると、「コープこうべ」の支店が左手にあり、北須磨団地と書かれた信号機が見えてくる。北須磨団地の出口である。この出口付近からタンク山に沿う道があったので、そのままタンク山を囲むように歩く。

少し坂道を上ると、「北須磨第二保育センター」がある。この保育センターは、教育の差別化を防ぐという自治会の理念のものに作られたもので、保育園と幼稚園が併設されている。

ちょうど幼稚園のお迎えの時間で、薄緑色のスモックを着た園児が、母親に連れられ

て帰っていく。入り口の階段脇 1メートルほどの高さの塀の上に立つ園児が、母親の目の前ではしゃいで飛び降りる。その光景をほほえましく眺めつつ、先を進む。

保育センター前の小さな道路を過ぎると、落合環状線の大通りに出た。この大通りには、幼稚園のお迎えの母親の車が止められている。その車は、外車のオンパレードである。BMW、ベンツ、アウディ、ポルシェまでとめられている。その豪華さに、圧倒される。

5. タンク山

(1) 水道タンク

落合環状線を歩いていると、県立北須磨高校が見えてくる。高校の校舎の向こうはタンク山が見える(写真30)。この北須磨団地内は、中心にタンク山を要しているのである。



写真30 道を歩いていると、突然、タンク山が眼前に現れる。

北須磨高校を過ぎると、遊歩道があり、タンク山の方角にのびていたので、祈るような気持ち(タンク山への道であって欲しい)で登っていく。ようやく、目的の道を見つけた。しかし、遊歩道にいた6、7人の住人は、みんなまっすぐ直進し、タンク山への右手の道へは進まなかった。マスコミの報道でおなじみとなっていた、タンク山へ向か